



イラストでたどる石州街道も 18 回目、ちょうど半分まで迎り着いた。距離的にもほぼ真ん中になるのは記事の地図からもお分かりいただけるだろう。今回は、街道紹介にはちょっと場違いな特急「隠岐」を登場させたが、鉄道ファンにはそれも良いだろうとの思いからである。世のヒコキファンとは違って、今や鉄道ファンは、「撮り鉄」「録り鉄」「乗り鉄」「駅弁鉄」「模型鉄」「呑み鉄」…と多岐にわたり、かつ幅広い年齢層から支持されているのは羨ましい限り。以前孫の一人も完璧な鉄道オタクだったが、今はゲームに夢中になっている。また何年か前、孫3人をSLやまぐち号に乗せたこともある。

小イラストはまだ SL がガンガン走っていた最盛期の頃の篠目駅で、友人に提供いただいた写真を元に描いたものである。給水塔の上が円錐状になっているのが見て取れるが、その部分がタンクなのだろう。ただ、これではあまり水が貯められないようなので、レンガ部分にもタンクがあったのかもしれない。今回の篠目駅は石州街道に直接関係するものではないが、是非紹介しておきたい場所だったのでお許し願いたい。実際の石州街道は、イラストの背後を横切って左側の山すそに延びている。今回で石州街道イラストはネタ切れとなるので、10月には再び題材探しに石州街道を歩く予定でいる。(2023.9.26 記)

イラストでたどる
石州街道 18

篠目駅

今回は街道の話題から離れて、篠目駅を紹介しよう。SLブーム到来で有名になったこの駅は「やまぐち号」の停車駅でもある。篠目駅が出来たのは今から一世紀前の大正6年のことだった。現在は無人駅だが、最盛期の昭和30年頃には駅員も10数名を数えたという。仁保駅からの急坂を越えてきたSLは、水を消費することから、ここに給水塔が設けられた。30トンタンクがレンガ造りの塔の上部にあったというが、今は失われている。松本清張の「砂の器」がTVドラマ化される際に篠目駅がロケ地として選ばれたことをご記憶の方もおられるだろう。近々SLも復活するようなので、石州街道ウォークの際は是非お立ち寄りをお勧めしたい。

文・イラスト 古谷眞之助

